遠位端粉砕骨折、右橈骨遠位端骨折を認めたため、整形外科的初期治療を行いICU 入室。15 時 30 分、意識清明、嘔気の訴えはあるものの、神経学的な異常所見を認めなかった。脳波上、覚醒時の基礎波は 8～9Hz のα波が主体で、徐波はわずかに混入するのみ。睡眠時には hump を認めた。発作活動も認めず、正常範囲と考えられ、脳症の所見はなかった。抗ウイルス剤としてはリレンザを１日２回吸入の方針とし、7 日昼より 5 日間施行した。体温は 39℃前後で経過。その後も意識は清明であったが、時折「お母さんは怖いから会いたくないよ。僕が落ちた時だって笑っていたんだよ」と興奮して号泣しながら感情を吐露する場面があり、気分の変動が激しかった。9 日 0 時 30 分頃、興奮して四肢を振り回してベッドから降りようとした。「嫌だよ、嫌だよ、殺さないで。お母さんとお父さんが僕の足をくだきにくる。僕はそれを見てるんだよ。痛いよ。」と泣きわめき、エスクレ坐薬、ミダゾラム静注による鎮静を要した。翌朝にこのエピソードについての記憶はなかった。9 日の日中から 37℃台への解熱傾向を認め、精神的にも落ち着いて経過し、夜間の不穏状態も認めなかった。11 日にはほぼ平熱に戻ったが、12 日の未明に疼痛の訴えとともに「クソ！シネ！わかんないよ。」などと興奮しながら叫び声をあげ、四肢をばたつかせるエピソードがあり。翌日には覚えていなかった。12 日の夜も眠中にうなされて大声をあげるエピソードを認めた。13 日、右足関節骨端線離開、左踵骨骨折に対し経皮的鋼線固定術、観血的整復内固定術施行。疼痛の訴えと、不眠は認めるものの、異常行動や不穏状態は認めずに経過し、16 日療養リハビリ目的に他院転院となった。